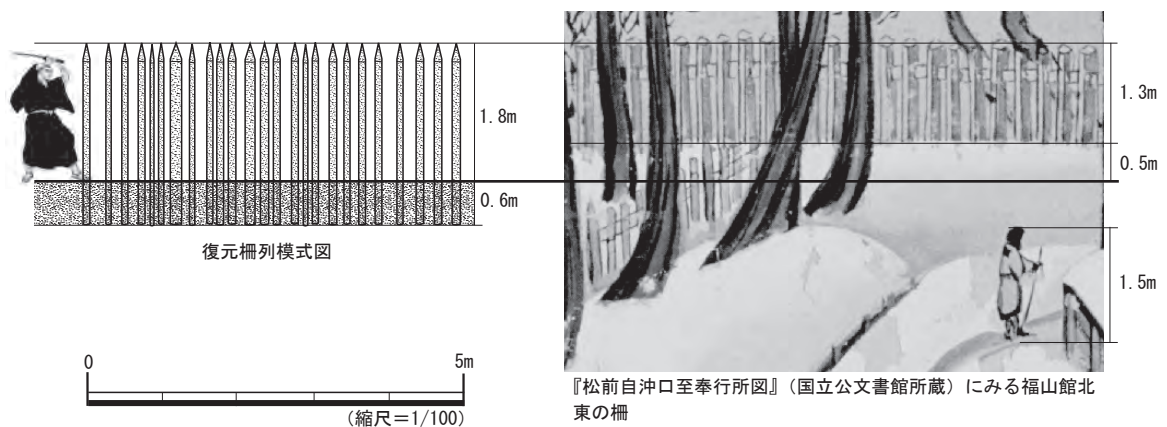


註1 上記のヒストグラムは、群馬大学社会情報学部青木繁伸氏の作成した「fit.normal」関数を統計解析環境「R ve13.2.1」上で実行し、得られたグラフに加筆したものである。

註2 曲線は理論正規分布曲線 ○は期待値

図 34 南西部の柵列柱穴直径及び柱間距離の統計量とヒストグラム



註1 柱材長は広葉樹の一般的な玉切り寸長の2.4m（8尺）とし、発掘調査成果に基づき0.6mを地下埋設とした。

註2 柱材径は0.05m～0.15mの範囲内で、図33「柱穴直径」度数分布の示す比率により各材径を配した。

註3 柱間距離は0.0m～0.5mの範囲内で、図33「柱間距離」度数分布の示す比率により配置した。

註4 『松前自沖口至奉行所図』は手前人物の身長を1.5mと仮定して縮尺を設定した。俯瞰で描かれていること、人物より柵列が遠方にあることから縮尺の再現は不精確であり、およその目安とする。

註5 松前町の平均積雪深は0.5～0.6mとされることから（松前町史編集室1984, p44）積雪深を0.5mと推測した

図 35 復元柵列模式図と『松前自沖口至奉行所図』にみる福山館北東の柵の比較